

京北地域における持続可能な移動サービスの検討について（説明資料）

1 現状

京北地域では、自家用有償旅客運送（交通空白地有償運送）及びスクールバスとして、「京北ふるさとバス（運行：公益財団法人きょうと京北ふるさと公社）」が運行されています。また、京北病院の患者送迎、右京区社会福祉協議会による福祉有償運送なども運行されており、さらに、新たに観光施設等への送迎輸送のニーズも着目されています。

一方で、京北ふるさとバスにおいては、昼間時間帯の利用者が特に少なく、また、利用者の多くを占める小中学生の利用も少子化により年々減ってきており、その結果運行収入が減少傾向にあります。

また、運転士等の担い手不足も深刻化しており、京北地域における移動サービスの将来にわたっての持続性が懸念されるところです。

（参考）令和 7 年度予算（運行補助）：34 百万円

2 令和 6 年度の取組

今後の京北地域における持続可能な移動サービスの在り方を検討するに当たり、令和 6 年度は以下の取組を実施しました。

(1) 利用者向けアンケート調査

京北ふるさとバスを含む、京北地域において提供されている移動サービス（福祉輸送等）の利用者に対してアンケート調査を実施。

【実施期間】令和 6 年 7 月 22 日（月）～8 月 16 日（金）

【調査対象】京北ふるさとバスほか京北地域における送迎サービスの利用者

【回収数】176 件

【結果概要】

- ・ 回答者の属性としては女性が多く、60 代以上が 80 % 以上
- ・ 京北ふるさとバス等の移動手段を利用されている方でも、「最も使用する移動手段は自家用車」と回答した方が 60 % 以上
- ・ 京北ふるさとバスについては「必要ではない」という回答はほとんどなく、普段は利用されない方でも、「免許返納や何らかの事情で自家用車を運転できなかった場合の移動手段として必要」という回答が最も多かった。
- ・ デマンド交通等新たな交通手段については、導入された場合に「利用するかどうか分からない」という回答が多かったが、「利用しない」という意見は少なかった。
- ・ その他自由記述において、「家からバス停までの移動が困難である」という意見が見られた。

(2) 第 1 回京北地域交通意見交換会

京北出張所主催で地域のボランティア輸送等の実施団体と各地区の自治会長を交えて取組の報告や意見交換を実施（令和 6 年 9 月 11 日）。

【会議結果（概論）】

- ・ 京北地域で新たな移動手段を検討する必要性について理解を得た。
- ・ 将来的にはドアツードア型の送迎サービスが必要との意見があった。
- ・ 利用者以外の意見についても聴き取ってほしいとの要望があった。

3 今後の取組

令和 6 年度に行った利用者向けアンケートや地域との意見交換会では、自動車に乗れなくなった際の移動サービスとして京北ふるさとバスだけではなく、よりきめ細かい移動サービスが必要であるという意見がありました。今後も高齢化に伴いその傾向が強くなると予想されます。

こうしたことも踏まえ、令和 7 年度は、全戸アンケート調査を実施し、地域の意見や利用実態を把握したうえで、京北地域に適した持続可能な移動サービスについて更なる検討を進めてまいります。